

令和3年度共通テストレビュー 数IA編

西村 祐輝

大問別

第1問

- [1] 二次方程式の問題。目立った難所はない、標準的な問題。設問は、会話文にあるヒントに気づけるかどうかポイント。
- [2] 三角比の問題。(3)は(1)の解き方を覚えていないと正解までたどり着けないため、「自分がいままでどんな問題を解いたのか」を押さえておく必要がある。

第2問

- [1] 二次関数の問題。「問題の状況をとらえ、適切に数式で表現する」という基本が出来ているかどうかで勝負が決まる。ア～オまでが埋まれば、二次関数の最大値を求める操作はやさしい。
- [2] データの分析の問題。とにかくたくさんの図表が出るので、難しくはなくても時間を食われるという意味で厄介。関連の強さを見分ける設問は、散布図への「慣れ」が必要であったと思われる。

第3問

確率の問題。去年までと同様、計算が煩雑であるため、解答に時間を要するほか、ケアレスミスの危険性もある。(4)は会話文のヒントに気づければ解法を導き出すことはやさしいが、やはり計算が煩雑。

第4問

整数の問題。規則に合わせた点の移動と不定方式を結び付けて考えられるかがポイントで、これができないとかなり苦戦するだろう。(4)は不定方程式にとらわれずに効率的な解法を考えなければならず、難しい。

第5問

平面図形の問題。問題の状況をしっかりと図にして描けるかどうかポイント。試行調査にあった新傾向は、この大問ではあまり見られなかったため、従来までのセンター試験の形式に慣れていた受験生にとってはやさしかったかもしれない。

昨年からの変化

- 大問数に変化はないが、1 問当たりの文章量が増加した。結果、ページ数が従来の 20 ページ程度から、30 ページ程度に増加した。
- 大問 1[1]、大問 3 などに会話文が出題された。これは決して問題と無関係ではなく、問題を解くために必要不可欠な情報を含んでいる。
- 大問 1 ト～ニ、大問 4 サ、シなど、公式をそのまま当てはめるだけでは解けない、思考力を問われる問題が多く出題された。

受験生へのアドバイス

- 日ごろから文章に親しみ、読解力を高めよう。多くの文章から必要な情報をすくい取るためには、読解力の向上が不可欠である。
- 常に「なぜそうなるのか」を徹底して考えよう。公式だけに頼ることなく、現象を論理的に考えることで、数学的な思考力を鍛えられる。
- 記述問題に取り組み、答案を書く力をつけよう。これも、筋道立てて物事を考える思考力を鍛える。また、記述問題は、問題の解法を自ら考えることが必要である。そのため、知識を問題に応用する力を身に付けることが出来る。